2021年 1月号 No.379

協歩 KYOHO Handsome ハンサム

～冷静と情熱～

Contents
●年頭ご挨拶　●12月例会開催　●第2回お地蔵さまフェスティバル実行委員会
●会社の「当たり前」をやめた　●卒会者寄稿　●「委員長・副委員長交流会」開催

◆鳥取県西部中小企業青年中央会　会 長 高塚康治　◆編集責任者／担当 副会長 恵比木　健　◆制作・編集 第46期ビジネスメディア委員会／委員長 柏木克仁

年頭のごあいさつ

鳥取県西部中小企業青年中央会
第46期 会長　高塚　康治

新年明けましておめでとうございます。

旧年中はOB会員の皆様をはじめ、各関係機関及び会員所属企業並びにご家族の皆様には、当会活動に格別なるご支援、ご協力を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

また、現役会員の皆様には第46期半年間の活動では、コロナ禍でいつも以上に配慮が行き届いた事業を企画、運営していただき、大変感謝申し上げます。

本年も変わらずよろしくお願い申し上げます。

昨年を表す漢字に「密」が選ばれました。まさに新型コロナウイルスに社会、経済が翻弄された一年であったように思います。これまでの生活を取り戻し、社会・経済が、アクセルを踏んで歩んでいけるよう、ただただ願うばかりです。

今年度、第46期はスローガンに「協歩」テーマを「冷静と情熱」と掲げ5つの委員会で活動しております。これまでの諸先輩方が築かれた伝統を心に刻み、互いに協力しながら事業を開催しております。

7月総会懇親会中止という異例のスタートから始まり、8月は委員長によります所信表明を映像で配信した新しい様式の例会、9月は講師、会員ともにオンラインで参加するZoom例会を成功させ、10月は久しぶりに会員が一堂に会し、伊木隆司米子市長をお招きしコロナ禍における地域経済対策についてのご講演と意見交換、11月はコロナ時代での新たなコミュニケーション術を学ぶ例会、12月は継続事業でありますトライアスロンとの関わりを考えていく例会と、各委員会が知恵を振り絞って開催して参りました。

そして、新年より下期の活動が始まります。上期で培った新しい様式を軸に活動して参ります。5月には当会の継続事業であり、6回目となる大山お地蔵さまフェスティバルも開催いたします。開催する形はまだまだ不透明ですが、先輩方が歩んでこられた道を再確認し、受け取ったバトンを確実に次に渡せるよう、会員みんなで協力しながら歩んで参ります。

我々を取り巻く社会経済環境は、この一年で劇的に変化し、大変厳しく様々な問題を抱えております。このような状況を乗り越えるべく、英知・友愛・団結の三つの力を結集し、力をつけた会員が地域経済の一助となるような活動を行っていきたく考えております。

本年の皆様のご健勝、ご多幸をお祈りすると共に、今後とも当会へのより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

12月例会開催

全日本トライアスロン皆生大会とTSC（鳥取県西部中小企業青年中央会）

12月15日、ふれあいの里において、継続実行委員会担当による2020年最後の例会となる12月例会が開催された。

冒頭の高塚会長のご挨拶では、12月14日に発表された今年の漢字「密」に触れられ、「2020年はコロナ禍の中「密」にならないようにここまでやってきたが、同時に、2021年には「密」になりたいという思いが、この漢字を選ばせたのではないか」と述べられた。そして、今期のスローガンである「協歩」にも触れられ、「協」には「協力できる人間になりたいとの意味が込められており、そのためには自身が力を付けなければならないので、会員の皆様にはこの漢字を傍に置いて活動していただきたい」とも述べられた。

委員長タイムでは、総務委員会の山内委員長が地元の淀江町をヒッチハイクでめぐり、淀江町の観光スポットやその見どころ、お食事処やおすすめのメニュー、企業等をご紹介され、一見知っているような地元にも気づいていない魅力があるのだと気付かされた。

本例会では、当会OBであり皆生トライアスロン協会競技委員長の森下正義氏及び同じく当会OBであり副競技委員長の野嶋功氏をゲストとして招き「全日本トライアスロン皆生大会とTSC（鳥取県西部中小企業青年中央会）」をテーマに3部構成で行われた。

第1部では「皆生大会の歴史とTSCの役割」として、小坂会員から皆生大会の歴史を振り返り、当会が果たしてきた役割、そして課題を新入会員含め全会員で共有した。

課題としては、準備や当日の作業量の多さや拘束時間の長さ、会員間に負担の格差があることに対する不満や大会規模に比してボランティアの数が少なくなっていること等が報告された。

第2部では、コーディネーターを長谷川会員、パネリストをゲスト両氏、マラソン部を代表して田中会員、ボランティア部を代表して小坂会員、AS部を代表して小谷会員を招き、「これからの大会運営」をテーマに、パネルディスカッションが行われた。運営サイドから見た当

会と皆生大会の関わりや、会員が考えている課題、それに対する運営サイドの見解が忌憚なく交換された。

その中で、ゲスト両氏からは、当会が最初に皆生大会と関わりを持った時のエピソードなど貴重なお話を聞くことができ、皆生大会をより身近に感じられた。また、ボランティアの負担軽減についても検討していることをお聞きすることができた。

第3部では、「皆生大会とTSC」として、皆生トライアスロンのやりがいや今後どのように改善していくかを少人数のグループを作って話し合った。

皆生トライアスロンの歴史と当会の関わり合いの深さを知るだけではなく、今後の当会と皆生トライアスロンの先を考える大変有意義な例会となった。

（記事：小原）

12月例会を終えて

安達　信彦　（㈱平設計設計課長）

年末のお忙しい中、そして、まだまだ新型コロナウイルス感染拡大が収まらない状況の中、12月例会に多くのご参加を頂きましてありがとうございました。

本例会では、「全日本トライアスロン皆生大会とTSC」と題し、当会の二大継続事業の内、「皆生トライアスロン」にスポットを当て、これまでの歴史と現状認識、そしてこれからについて考える機会となりました。パネルディスカッションでは、当会OBであり、皆生トライアスロン協会　森下競技委員長、野嶋副競技委員長のお二人をお迎えし、大会運営についての意見交換を行いました。お二人からは当会が大会に参加し始めた当時のお話を熱い気持ちを込めて語って頂きました。その熱はしっかりと会員たちに伝播し、続くグループディスカッションでの活発な意見交換に続きました。この活動が継続事業として、どのように始まり、なぜ継続されてきたのか、そしてこれからどのようにしていくのか、これからも考え続ける必要がありますが、まずは大きな一歩を踏み出せたと感じました。

事前準備をはじめ、多くのご協力を頂きました委員会メンバーの皆さまの支えと、当日の雪に負けないOB会員のお二人、会員の皆さまの熱気により、本例会を無事に終えることが出来ました。本当にありがとうございました。

第46期ハンサム連載『会社の「当たり前」をやめた!』

『会社の「当たり前」をやめた!』Vol.5

「『水の如く』5～10年先の変化を常に意識しての挑戦」

株式会社 石田コーポレーション

第三編集部　谷村祐也(リーダー)、松井淳一、河津孝彦、狩野智邦、伊澤佑矢、石井道治

管材の専門商社であった企業が、なぜ多角事業に挑戦し続けるのか。株式会社石田コーポレーションの石田専務取締役、美濃常務取締役にお話を伺いました。

石田専務取締役㊧ 美濃常務取締役㊨

―多角事業への拡大はいつ頃から取り組まれていますか?

山陰という商圏で50年前から管材専門商社としてスタートし、時代やお客様のニーズに合わせて空調機器・住宅設備機器・土木資材を取扱う総合商社へ事業展開を進めている。社長から「常に変化に対応していこう」との言葉もあり、やってみたいことが出来れば「よしやってみよう!」と色々と失敗もしながらも新事業へ挑戦している。

―新たな事業への挑戦のきっかけを教えてください。

環境(リサイクル資材)・工事(リフォーム・設備)に関しては、主業の商社機能に付加価値を生むための事業としてスタートした。海外事業(アンテナショップ)は、以前から技能実習生の雇用等取り組んでいたが、上海万博の開催や中国進出の動きが多かった時期に社長の海外への挑戦の想いもあってスタートしている。農業は社長が本当にやりたかった事業。日本は食料自給率が低く、農水省の補助金制度の活用などで自給率アップを目指す流れの中で「もし海外からの食糧輸入が途絶えてしまったら?」そのリスクに対して既存事業とは別の利益を生み、先を見据えて確実に需要・収益が増えていく事業として捉えている。まだ収益に直結はしていないが、さらなる新規事業への連携も考えている。

―グループの各事業は、主業から違う事業があるように感じますが、連携はありますか?

農業の設備は主業の商材なので工事事業と共に協力できている。作物や加工品の話題はグループ内の営業が「グループ企業の雑談トーク」として顧客に提供することにより、事業活動それぞれに相乗効果が生まれた。その他にも「リフォーム×リサイクル資材」「農業スイーツショップ×本社SNSでの情報提供」等、「グループ=総合商社」という新たな価値を創造し、一層の連携を図っている。

―新たに「地域振興部」を立ち上げられたと伺いました。

当初の狙いはインバウンドです。米子―上海便の就航、クルーズ船の境港寄港などに対応し、地域の企業と連携したパッケージツアーを企画する事業。また、インバウンドだけでなく県外からの観光客を誘致し、農業事業の持つイチゴやサツマイモの観光農園をツアーに組み込んで、作物の加工品を用いた体験型のツアーや地元の名所めぐりツアーを企画し、山陰ローカルの美味しい「食」を自社ブログで紹介するなどの展開を予定していたが、コロナ禍で企画をストップせざるを得ない。現在は「山陰×観光×農業」をテーマに事業再開に向けての種まきを行っている。

―事業多角化の中での苦労や課題、その克服方法はどういったものがありましたか?

顧客のニーズの変化に対応する為の各種新事業。その実現にはスピード感と意欲的に動く人材が大切。プロジェクトを任された社員が、社長のビジョンを何とか形にしようと使命感をもって取り組む。また引っ張っていく柱となる。そういった人材に当社は恵まれている。

一方で、柱となる社員しかできないこともあり、欠員が出ると事業が進まなくなる。そういった課題に社員教育をすることで克服する必要性を感じている。

―変化をし続けていく事への挑戦の中で、「成果」としては何がありますか?

当社には「水の如く」という経営理念がある。水は澄んだ流れにもなるが時には激流にもなる。5～10年間変化のない中小企業は衰退するという言葉がある。需要とは違う流れの中でニーズに対応し続け、山陰という商圏で「商社」は何でもできるという機能性を生かして山陰を活性化する為の仕掛けを企業として常に行っていきたい。

また近年の新規事業では約半年で事業を形にしている。当社は人を巻き込む力を持った社長と、スピード感をもって動く人材、投げ出さない人材に恵まれている。新たにキックオフをする事業で、今後も山陰の将来のために事業展開をしていく。人材と事業展開、そこから生まれる人脈を得られた事が、「総合商社」として各種事業に挑戦した最大の成果だと考えている。

取材を終えて

専門商社から総合商社へと成長を遂げた石田コーポレーションは、経産省から地域未来牽引企業にも選定されました。経営を安定させる為には、本業に集中するという当たり前をやめ、新規事業に本業を見出すのだという攻めの姿勢、そして強い方向性の意思を感じました。

T.S.Cへの情熱　～卒会者より～

福本　隆史(河崎植木園副代表)

皆様、お世話になっております。早いもので中央会に入会させて頂き8年経ちました。入会当初は何もわからず、ただ皆様に自分を覚えて頂きたい一心で少しでも多くの方々とお話させて頂けるように、とにかく委員会、例会には必ず参加するという事を心掛けておりました。やはり何でも参加して顔を出して皆様に自分を覚えて頂く、これが先ずは中央会の基本原則だと思っております。仕事で参加できないこともあるでしょうが、参加できるように努力してとにかく顔を出すこと。簡単なようでなかなか難しいことです。まずは皆様もこれだけは頑張って頂きたいと思っております。中央会に入会したからには、自分の顔、名前をしっかりと覚えてもらい、少しでも多くの方々と共に中央会活動、遊びを頑張って、色々なことを学びながら友愛を深められたらと思っています。この思いは8年経った今現在も全く変わる事のない情熱です。

とにかく悔いの残らないよう、自分に何ができるかをしっかりと考え、残り少ない中央会人生を精一杯楽しんで過ごしたいと思います。皆様、今後とも宜しくお願い致します。

令和2年度鳥取県中小企業青年中央会「委員長・副委員長交流会」開催

12月5日(土)ホテルセントパレス倉吉にて、鳥取県中小企業青年中央会主催の『委員長・副委員長交流会』が開催されました。冒頭で冨田県会長より「今期テーマ『相利共生』は、お互いの良いところを出しながら生きていく意味があり、各委員長・副委員長が1年間どのように思い活動するか出し合い今後の活動に活かしてもらいたい」と、ご挨拶がありました。交流会内容としては、プレゼンテーション交流として、委員会活動の狙い、目的、結果を各委員長・副委員長が説明し、様々な思いや活動が発表されました。各地区から県三役・県監事・県理事をはじめとする委員長・副委員長が出席し、お互いの理解を深め、交流を促進する機会となりました。

(記事:柏木)

第6回 大山お地蔵さまフェスティバル 第2回 実行委員会開催

令和2年11月20日に第6回大山お地蔵さまフェスティバル第2回実行委員会が開催されました。

高塚会長をはじめ、37名の会員が出席し、各企画部に分かれ企画案の協議を行いました。各部とも白熱した議論が行われ、塗り絵・絵画、造形物の展示やお地蔵さまの清掃、流しそばのコロナ対策、キャラクター釣りや射的などの縁日、にこっとさまダンスのステージ企画など、それぞれの部が担当する企画案の大枠が決定いたしました。また、雨天時や縮小開催の場合の協議もなされ、「無病息災を祈る」のテーマのもと第6回大山お地蔵さまフェスティバルが無事開催できるよう、一歩ずつ着実に前進をしていることが感じられました。

(記事:谷村)

1月役員会報告

令和3年1月4日(月)米子市公会堂　集会室6・7にて1月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- 12月例会報告の件
- 鳥取県中小企業青年中央会の件
- 第6回お地蔵さまフェスティバル開催の件
- 新年例会開催の審議
- トライアスロン実行委員会についての上程書
- 2月例会開催の協議

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

右も左も分からないまま瞬く間に上期が終わりました。長年にわたり毎月発行しているHandsomeに携われている事に誇りを持ち、下期も自信をもって偉大な歴史の１ページを刻んでいきたいと思います。

(ビジネスメディア委員会:石井道)